
高島、農業の未来 (FUTURE S)

- 次の10年と一緒に考えさせてください -

DAS LAB代表／総合プロデューサー

Yasumitsu Jinno

November 29, 2025

DAS LAB

DAS LABは、地域の未来をつくる活動をしています。

滋賀の「ありたい未来」に向かって
取り組んできた各地でのプロジェクトを
今年の4月、イベントで発表しました。
(イベント映像をご覧ください)



滋賀
FUTURE
THINKING
WEEK

過疎化が進む地域の未来は、
データ アート & サイエンスで
どんな未来に変えられるのか



高島＝ウォーター・セントリックの実験地 いい水は、自然と、人と、未来を創る。

人間第一の考え方から、
「水に生かされる」未来市民としての考え方とは。
これまでのエネルギーではなく、
自然がつくり、自然を守るエネルギーの可能性とは。
最新のテクノロジーとリテラシーで住民と対話する、
未来の自治体のあり方とは。
「ウォーター・セントリック」という滋賀全体を括る未来構想の中で、
高島は豊かな水で育まれた壮大な「余白」を生かした
「じゃないほう」の未来を創る実験地になる。
消滅可能性自治体と言われた高島を、
未来思考の先進地へと変えていく。

どういった活動
なぜ地域
なぜ滋賀

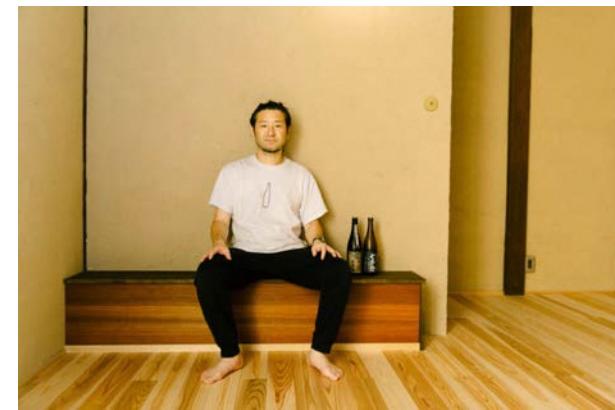


※2017年から始まる滋賀大とトヨタGの「データサイエンス道場」がきっかけ

2023年～滋賀を舞台に
地域のデータを活用した
大学と企業の共創による地域創生

日本のものづくりを守るために、
持続可能な地域の未来をつくる

地域の声を聞くことから始める
人からひとへの紹介で、毎週滋賀に通い
3年間、様々な人々と対話を重ねました。



地域創生の問題

**課題探しに終始し、課題を潰しても
地域の未来は作れない**

データサイエンスの限界

**過去のデータを用いて分析するだけでは、
今の改善(マイナス→ゼロ)や効率化(89→90)
に留まり、新しい未来(0→1)はつくれない**

- データをそのまま読むことの危険性
 - 消滅可能性自治体
- データサイエンスの研究者
 - 問題とデータを持ってきてくれたら解くよ

我々のやり口

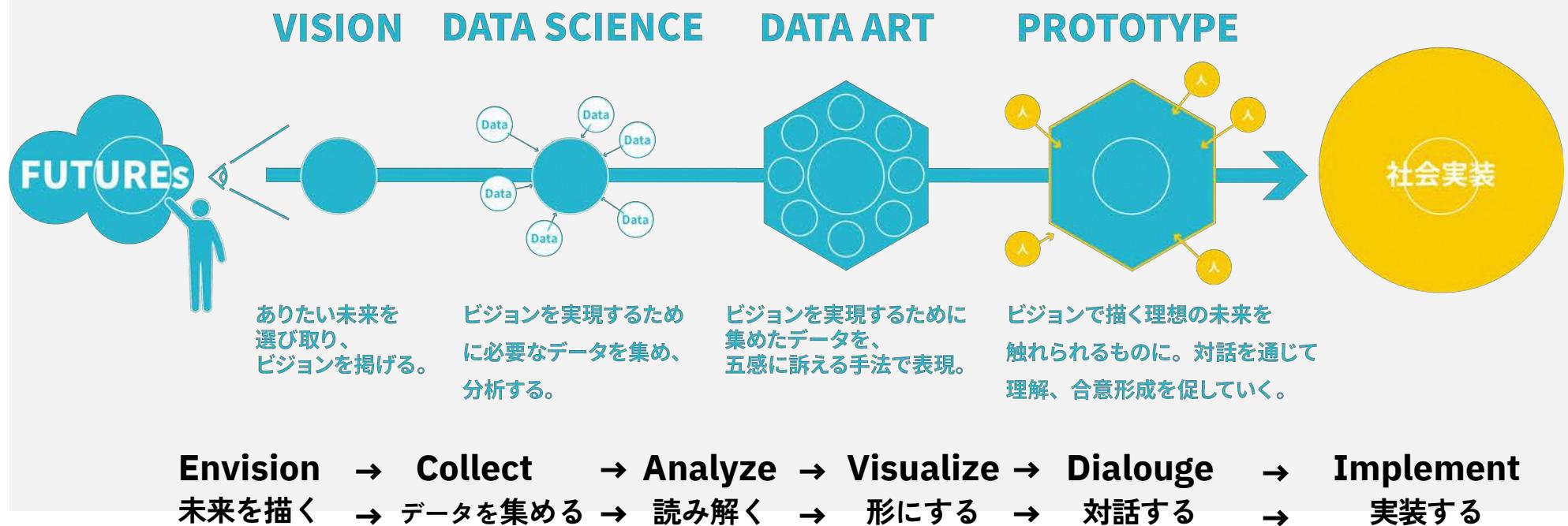
大切なのは、複数形の未来（FUTURES）の中
から、その地域にふさわしい未来を選び取る力
とありたい未来を実現するために必要な
データを取得・分析・見える化することでより
多くの人を巻き込みながら対話をつくること

我々のやり口

この我々の思いを形にするために
従来のデータサイエンスから新しく
DAS（データサイエンス+アート）という
手法を開発し、滋賀で実践しています。

DASアプローチ

ありたい未来へのビジョンを描き、広く人々が理解できるかたちにすることで共感と対話を通じて社会実装へ繋げていく——これが**DASのアプローチ**です。



ただ、どこかの地域での成功事例を持ち込むのではなく、
その地域に「ふさわしい」未来を考えたビジョンを見つけるために
まず地域のコミュニティに入り、3年間対話を重ねてきました。

こうした対話を通じて、滋賀県全体のビジョンと
各地域ごとのビジョンが生まれ、
DAS LABでは現在、このビジョンをかなえるためのいくつもの活動を
滋賀の人々や企業と共に進めています。

滋賀県全体の未来構想ビジョン

II

ウォーター・セントリック Water-Centric

滋賀の未来を、「水を中心に考える」

滋賀県全体の未来構想ビジョン = ウォーター・セントリック

滋賀の未来を、「水を中心に考える」

琵琶湖という巨大な古代湖と共に暮らし、その恵みに生かされていることで、滋賀の人々には「水を守ること」への高い意識が育まれています。

DASプロジェクトでは滋賀県全域でのフィールドリサーチから、水を起点にした「滋賀にふさわしい」未来構想ビジョンを設定しました。

持続可能な滋賀の未来を考える上で、これまで当たり前だった人間中心(=human centric)の社会をあえて疑い「水を守ることを中心にしてすべてを考えてみよう」というのが、「ウォーター・セントリック」ビジョンです。

DAS LAB

滋賀県高島市について

滋賀県高島市について

**消滅可能性自治体を、
ウォーター・セントリックの実験地に**



「10年後、日本のお米が食べられなくなる」

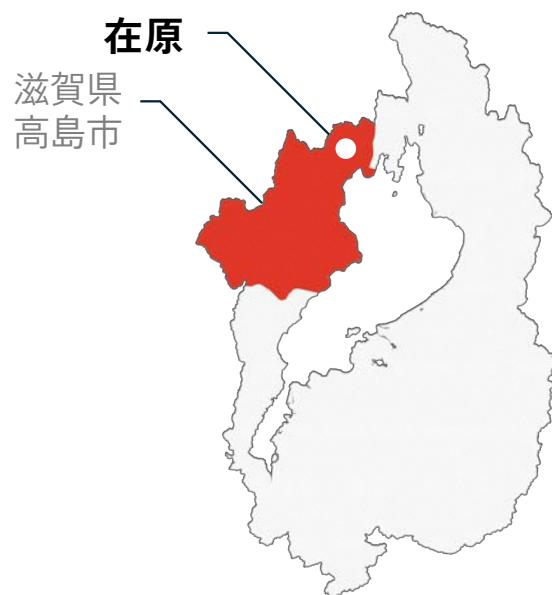
「農業排水は、琵琶湖の汚染の一因になっている」

滋賀県高島市について

**消滅可能性自治体を、
ウォーター・セントリックの実験地に**



消滅可能性自治体を、 ウォーター・セントリックの**実験地**に



マキノ町在原地区で、大学と共に
農業の実験をスタート。

(東京農工大研究チームとの共同プロジェクト)

実験：

データを活用することで「信じられる農」が作れないか？

マキノ町在原地区、棚田での農業実験

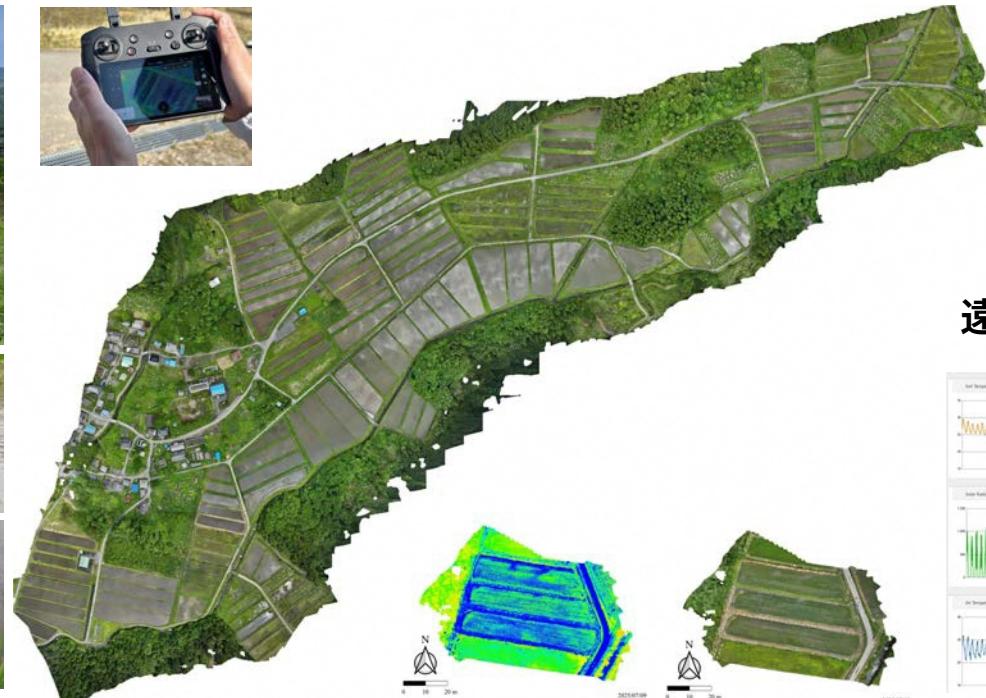


有機農業家 福井朝登さん

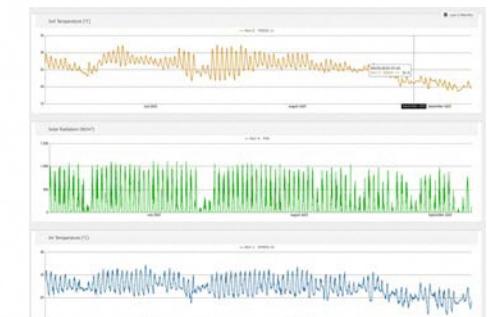
東京農工大学研究チームによるフィールドワーク

ウォーター・セントリック

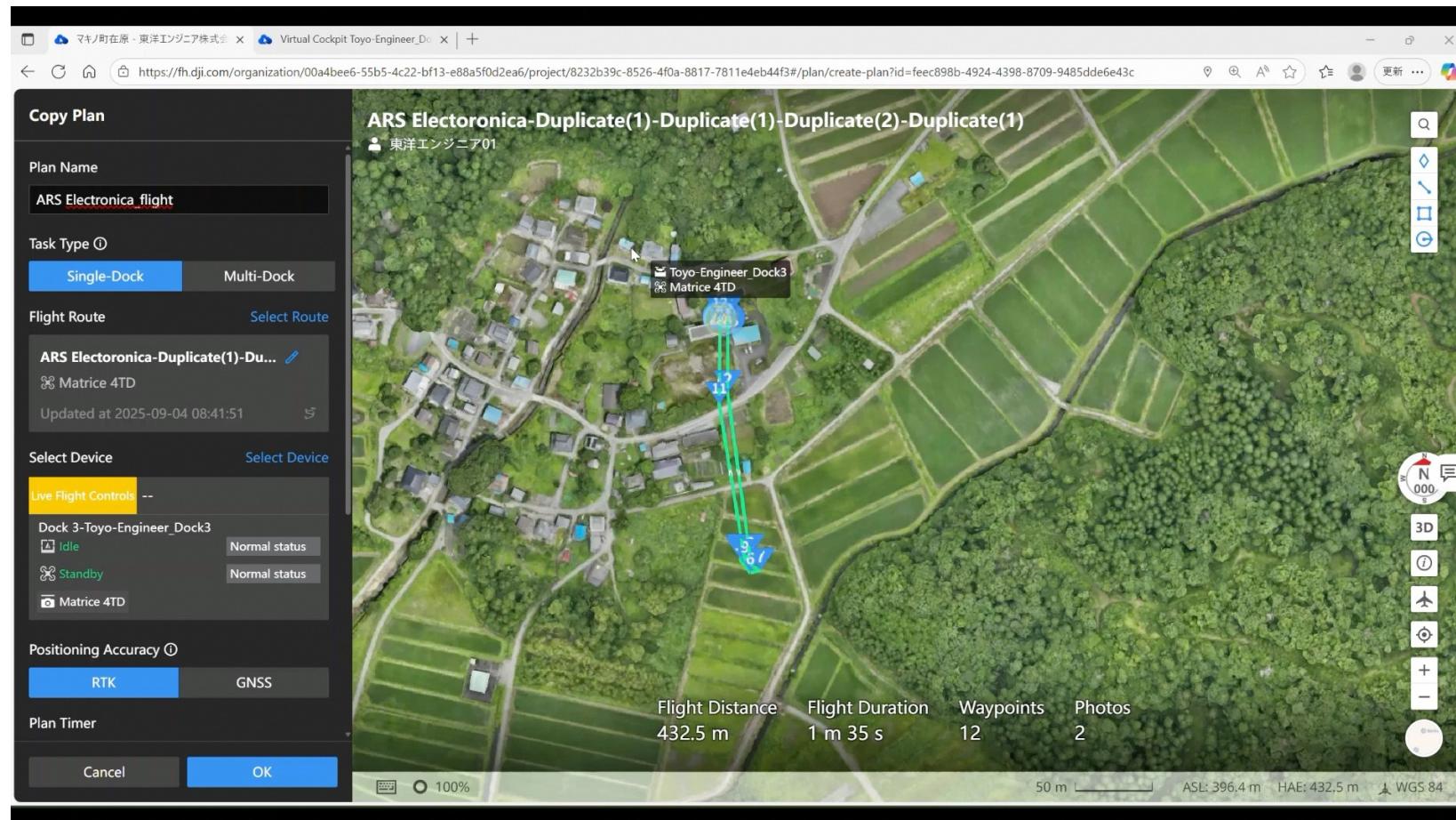
水田を借りり、水田に設置したデバイスやドローンを活用し、複合的なデータを取得しながらの米作り。誰がどこでどんな思いでどのように作られた米なのかを、データで記録。



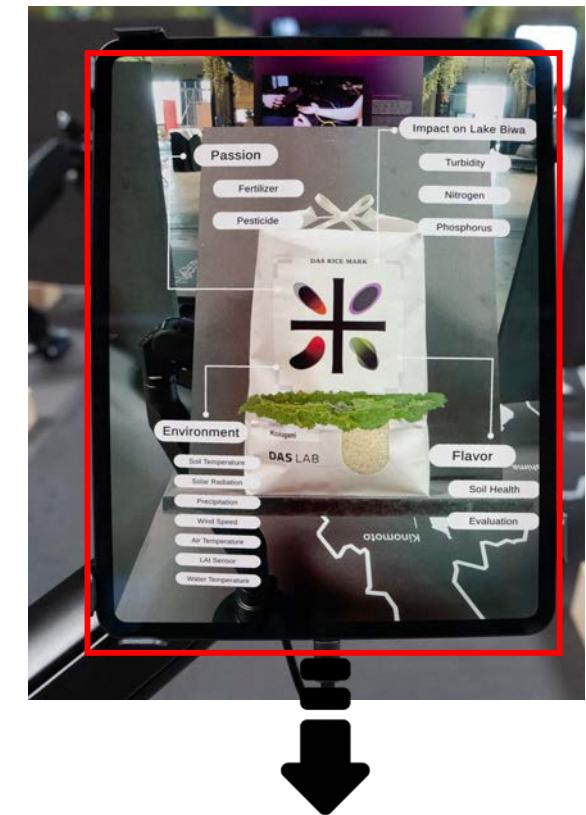
遠隔操作 ドローン・ドック



ドローン遠隔操作（デモ画面）



DAS RiceMark (ARマークから全てのデータを見る化) 開発



次ページへ

「米作り」を多角的なデータで可視化

田んぼにデバイスをつけ耕作にまつわる包括的なデータをあつめ、農業デジタルツィン化。
取得しデータを活用し、『未来の成分表示』をつくります。

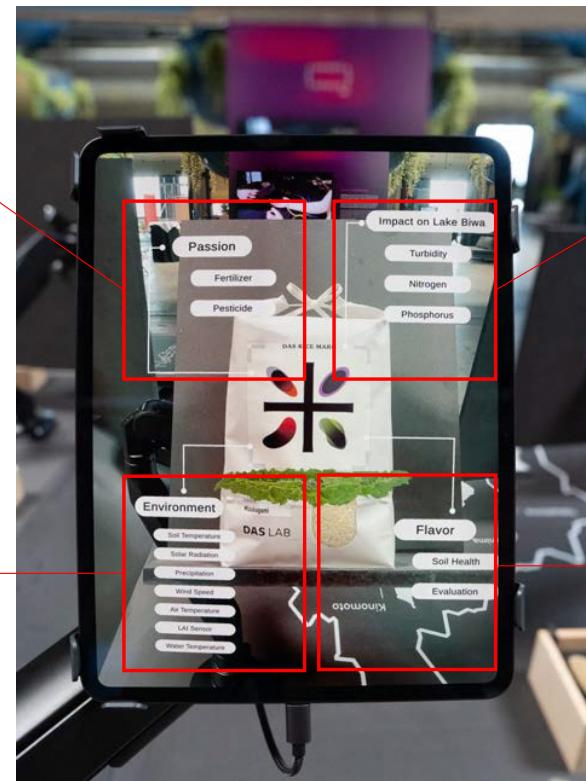
米がどのように育てられ、誰が生産し、どのような条件でつくられたのかが可視化され、こうした取り組みは、安心して食べられる米と、それを支える信頼できる農をブランド化することを目指します。

コンテキストデータ

- ・生産者の想い・こだわり
- ・肥料
- ・殺虫剤

環境データ

- ・気温
- ・地温
- ・水温
- ・生育データ
- ・ドローン
- ・センサー観測



琵琶湖への影響

- ・濁度
- ・窒素
- ・リン

品質データ

- ・土壤検査
- ・食味検査

コンテクストデータ：生産者へのインタビュー



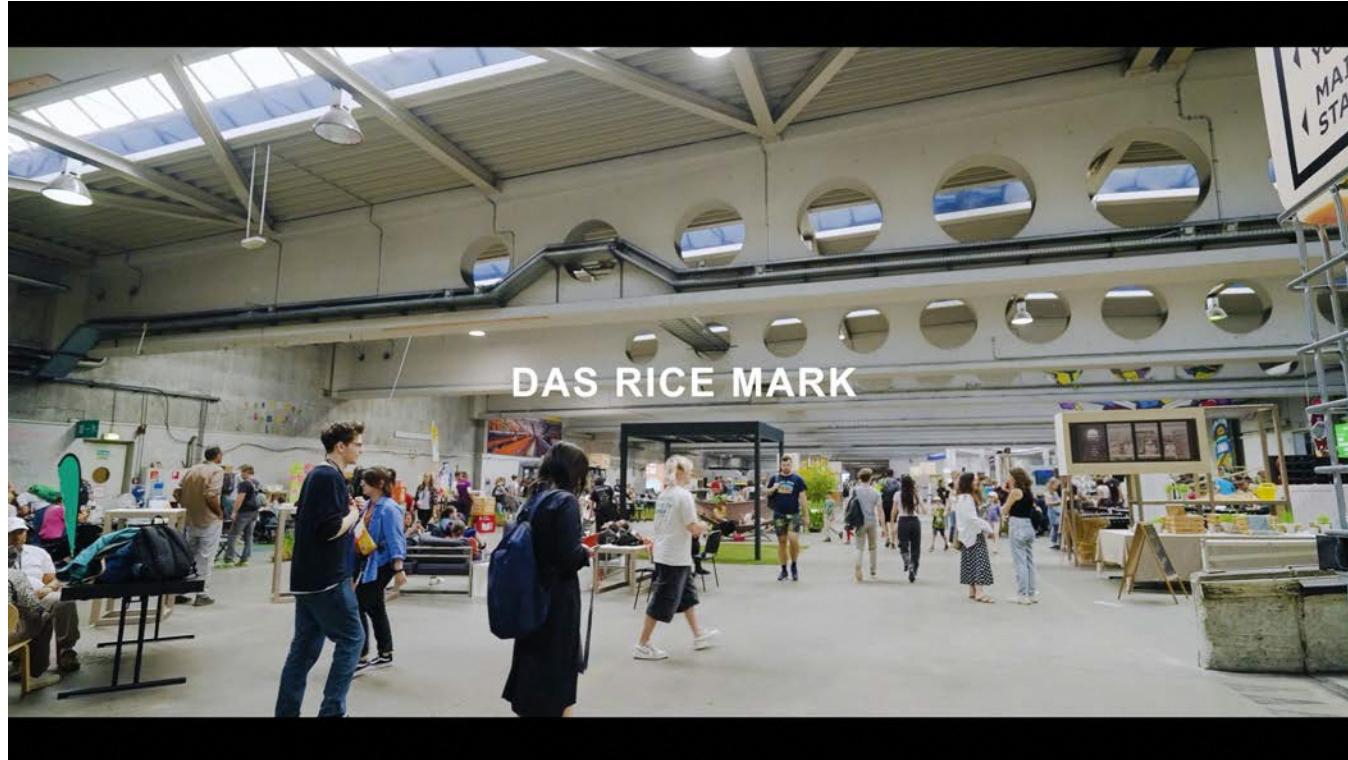
ウォーター・セントリック

世界最大規模のアートとテクノロジーの祭典「アルスエレクトロニカ・フェスティバル2025」に出展し、活動を世界に発信しました。



ウォーター・セントリック

ARS フェスティバル2025
DAS RiceMark映像

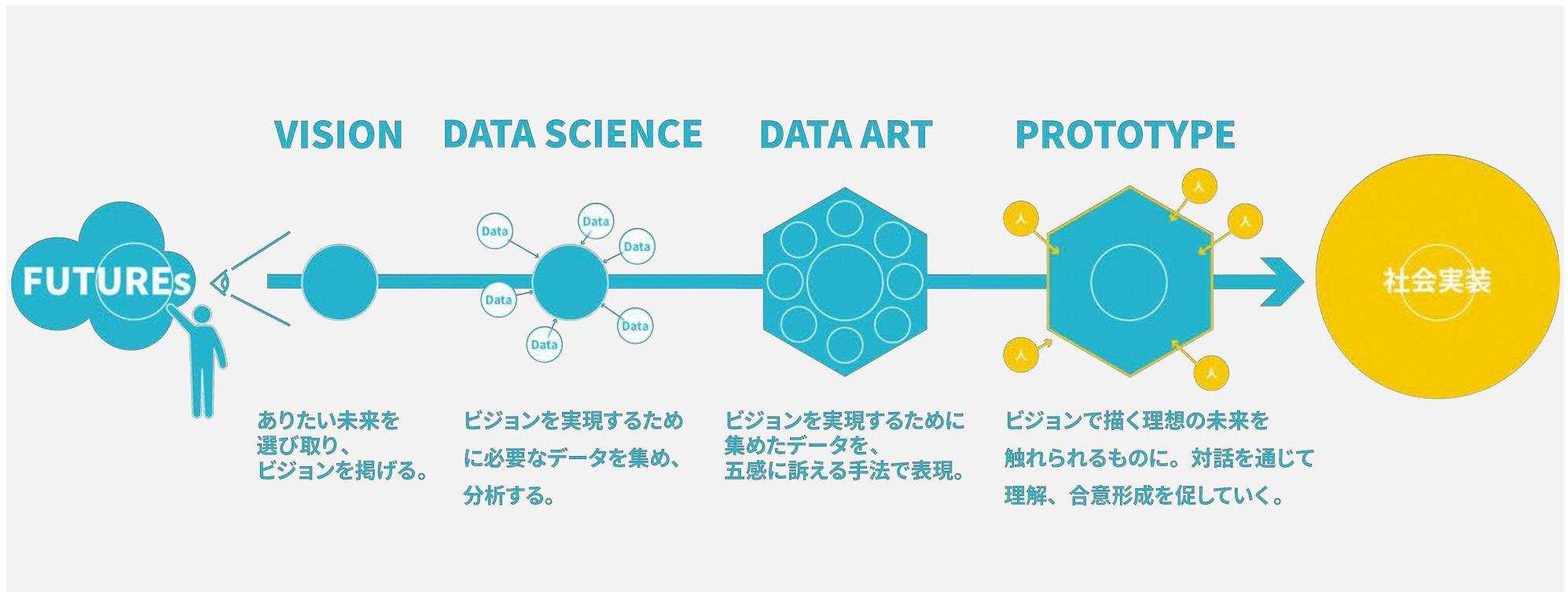


国内外から注目を集め、高い評価を得ました。

< DAS Rice Mark とこれから >

- ・ 「DAS Rice Mark」は環境、農家のこだわり、琵琶湖への影響、食味などの複合データを可視化した「未来の成分表記」として作成しました。消費者との信頼関係を生み、「**信じられる米**」としてのブランド構築をめざします。
- ・ 具体的には、ブランド構築のために、実験地域を広げ、在原にとどまらず、有機農法とそのデータを見る化する「DAS Rice Mark」のついたお米を、高島市の他の水田にも広げていきたいと考えています。
- ・ さらに、あらたな実験として、在原地区の耕作放棄地を活用して、企業や個人が参加できる「**体験プログラム**」のリリースを構想しています。これにより、集落へのあらたな人の流れをつくり、**棚田の再生と集落の未来づくりに役立てたい**と考えています。

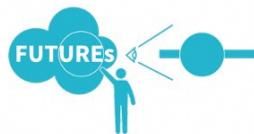
DASアプローチのプロセスに分解



ウォーター・セントリック

DASアプローチのプロセスに分解

VISION



高島市をウォーターセントリックな社会を実現するための「**未来の実験地**」に第1弾の実験として農業プロジェクト。そのビジョンとしてはデータを活用することで、琵琶湖にやさしい農業、安心して食べられる食物として「**信じられる農**」を目指す。

DATA SCIENCE



水田を借り、水田に設置したデバイスやドローンを活用。複合的なデータを取得しながらの米作り実験



DATA ART



“未来の成分表記”「DAS RiceMark」を開発・展示
(アルスエレクトロニカ フェスティバル2025で展示)



PROTOTYPE



収穫したお米を「DAS RiceMark」付きパッケージで販売（2025年12月13日）



新しいブランディング手法として「DAS RiceMark」を高島の米農家に広げる
(2026年～)

信じられる農の実験で目指したいもの

高島らしい農をつくる



農作物にあらたな価値が生まれる



高島の農作物が評価され結果、高く売れる



高島に新規就農する人が増える



耕作放棄された農地が再生する



さらに琵琶湖にやさしい農が増える



結果、琵琶湖が守られ、地域も潤う未来を実現する

信じられる農の実験から、
高島らしい「関係人口」が生まれる

「関係人口」



「体験人口」

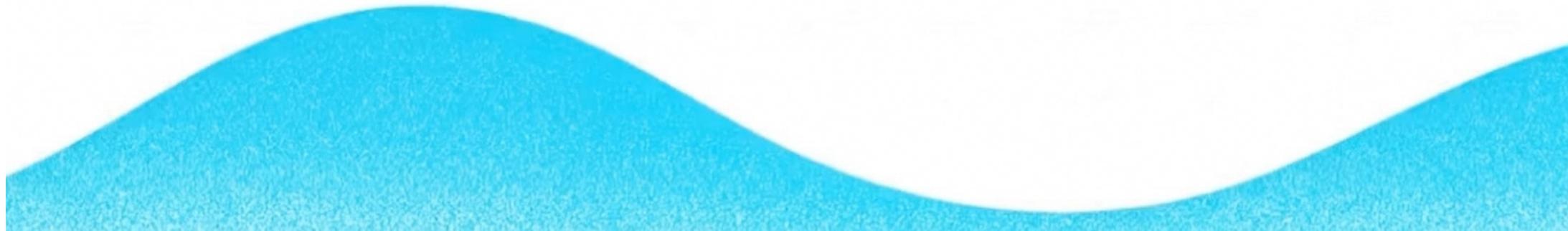
高島をフィールドに大学、企業と共に様々な実験を実施する。
実験に参加するビジネスパーソンや学生、個人を募ることで
一過性の観光ではない継続的な関係「新しい流入」をつくります。
この実験を第1弾とし、農業分野からスタート。
これから高島は、**体験に訪れる人がふえる=関係人口増加=**

⇒ 消滅しないまち=持続可能なまちづくり

という流れを生み出したいと考えます。

DAS LAB

滋賀独自の未来をつくる



Thank you.

Let's co-create the futures.

DAS LAB